

平成 30 年度 まちづくりカフェ 概要

日 時 : 平成 30 年 11 月 19 日 (月) 19:00~21:00
場 所 : 置賜総合文化センター301 研修室 (米沢市金池三丁目 1-14)
参加者 : 16 名
主 催 : 山形県

若者が商店街をエリアに自分のやりたいことに取り組むきっかけづくりや参加者同士のネットワーク形成、新しい視点で「これからの商店街」を考えるきっかけとなる意識啓発を目的に「まちづくりカフェ」を開催しました。

▼ 事例発表

<デザイナー 須藤修氏 (南陽市出身) >

もともとその土地にあるものを活かしたいという思いでデザインの仕事をしています。もともとあるものを活かすためには多様なデザインが必要。企業、地域、商店街、個人のクラフト作家等様々な人が持っている、「もともとあるものをデザインを使って伝える、新しい見せ方をする」ということを工夫して行っている。山形にあるものを今の時代に響かせたり、次の時代につなげるということ、プロダクトデザイン、家具・空間デザイン、フィールドワーク、ツアー等の手段を通じて、その状況にベストな方法で伝えたい。

<スタジオ八百萬 代表 山田茂義氏 (米沢市出身) >

スタジオ八百萬は「自分の住む地域に貢献したい」と立ち上げた県内初のコワーキングスペース。スタジオ八百萬を通して地域内の繋がりができてきている。そこへ他地域の人も仕事や移住で繋がってくる。そこへ参加することで信頼できる人とのつながりが生まれ、「自分がやりたいことをやっていきいきと生きている」というお手本を見て、「自分は実はこんなことをやりたかった」ということを思い出す。その時に、チャレンジする場所があり、手伝ってくれる人がいて、取り組みが実際に生まれる。それが事業に発展する人もいる。それがまた他の人とのつながりに影響し合って循環していく。これが増えていけば地域がいきいきとした人たちであふれると考えている。

(山田氏)

事業を始めた当初は、地元で勉強会をやっている方や、新しい変わったやり方で仕事をしている方が集まってきていた。それが徐々に変化し、普通の主婦が集まってきて、たまたまつながった人と、「それ面白いですね」という風に始まったり、思い付きでスタートしたり、思っていなかったものが素敵な方向に進んでいくようになった。

(山田教授)

活動を1人で行うメリット、デメリットは。

(須藤氏)

やってみたいと思った時にすぐ行動に移せることがメリット。しかしプロジェクトのほとんどは人の力を借りて行っており、必ず団体になる。周りの人たちとのよりよい関係性があるって、自分のモチベーションを高く保つことができる。

(山田氏)

一人が楽で好き。コワーキングスペースは当初うまくいかないと思っていたので、他人を巻き込まないために一人でスタートさせた。

(山田教授)

スタートは個人だが、最後まで一人で引っ張っていく訳ではない。自分は呼び水のなスタートは行うが、後は誰かの力を這わせ、ネットワークを組みながら、最終的には団体で事を運んでいる。一人でがむしゃらにみんなを引っ張っていく強引さが無く、良いコミュニティが作られている。良い意味で自分から手を放しているところがあり、それが逆に個々のつながりを強くしているように思う。

(山田教授)

資金調達の方法は。

(須藤氏)

森林プロジェクトは県の助成を最初の3年間受けた。例えるならば、エンジンを最初つくるために助成金を借りるが、エンジンが完成したらオイルを注ぐのは自分。値段を下げすぎると続かなくなってしまうので、トライ&エラーで活動とお金のバランスを考えている。

(山田教授)

コワーキングスペースはビジネスとして成り立つか。

(山田氏)

米沢は工場勤めの人が多く一人で仕事をしている人は少ない印象。1年目から黒字だが、収入としては少ないのでこれからとは思っている。置賜でスペースレンタルのみで事業を回すのは結構大変、場所にお金を払う感覚が無いと思われる。

(山田教授)

だからこそ集まってくれる人がコワーキングスペースの大きな資産になると思う。斬新な話だが、スペースを利用して起業していく人がいるのであれば、金融機関とリンクして起業支援のファンドを立ち上げるという形になれば、かなり大きなビジネスになると思う。それはもう少し大きくなるとだめな話かもしれないが。決してビジネスとして成り立たないということはないと個人的には感じた。

総括 (山田教授)

まちづくりについて短く答えるとすれば「共有意識の創造」。今まで村社会や農村地域であったような「みんなで何かを大切に作る」という意識を、今の時代は誰かが中心になって作っていかないと作り出せないような時代。まさに、須藤さん及び山田さんがされているのは共有意識の創生。山形県、特に置賜米沢はものづくりの地域。そこをスタートとしてこのような「まちカフェ」のような集まりが今後も続いていくと、より良い形で米沢市のものづくりとしての特性をまちづくりへ活かしていけるのではないかと思う。

